

潜在的態度の変化に対する魅力的な顔の効果

西村 友佳
小川 洋和

関西学院大学大学院文学研究科
関西学院大学文学部

Wang et al. (2015) suggested that the presence of attractive another person brings out the moral behavior because the positive feeling arose. Then, does the presence of attractive people influences implicit moral attitude? In this study, we tested whether repetitive exposure to attractive people influences implicit moral attitude as well as explicit behavior. Before and after participants were exposed to a sequence of 100 attractive female face images, their implicit moral attitudes were measured with the Implicit Association Test (IAT). Also, their positive and negative affect states were measured with Japanese version of positive and negative affect schedule (PANAS). The results showed that the IAT-score significantly decreased after the repetitive exposure to the attractive faces. The PANAS score of negative affect also significantly decreased. However, the correlation between the amount of the change of the negative affect and the change of the implicit morality was not significant. These results suggest that independent of the affective state, the implicit moral attitude is affected by the repetitive exposure to attractive females.

Keywords: Facial attractiveness, morality, IAT.

問題・目的

道徳的判断やそれに伴う行動は他者の存在によって影響を受けることが知られている (Bhagal, Galbraith, Manktelow, 2016; Grimalda, Pondorfer, & Tracer, 2016; Wang, Xia, Xu, Ru, Mo, Wang, & Mo, 2015)。例えば Wang et al. (2015) は魅力的な他者が呈示されることによって、魅力度の低い他者が呈示されたときよりもポジティブ感情が生起し、道徳的な行動が引き出されることを示した。

では、魅力的な他者の存在は潜在的な道徳態度にも影響を及ぼすのだろうか。本研究は、魅力的な他者の顔写真が連続呈示される前後で潜在的な道徳態度が変化するかを、潜在連合テスト (Implicit association test; IAT) を用いて検討した。IAT とは、二重カテゴリー分類課題を通してターゲットと属性の連合の強さを測定し、ターゲットに対する潜在的な態度を検討する方法である (Greenwald, McGhee, & Schwartz, 1998)。本研究では、自己と道徳的属性の連合の強さを潜在的な道徳態度の指標として測定した。加えて、ポジティブ情動項目、ネガティブ情動項目それぞれ 8 項目で構成されている簡易気分評定尺度である日本語版 PANAS (佐藤・安田, 2001) を用いて気分状態の変化を検討した。魅力的な他者の存在は顕在的な行動だけでなく潜在的な道徳態度にも影響するのであれば、魅力的な他者が連続呈示されることによって自己概念と道徳的属性の連合の強さが変化すると予測される。

方法

実験参加者

関西学院大学の学生 80 名 (男性 40 名、女性 40 名) が本実験に参加した。平均年齢は 19.88 歳であった。

実験材料

語句刺激と画像刺激を用いた。自己及び他者概念を表す語句をそれぞれ 5 つずつ用意した。また、道徳的及び非道徳的属性を表す言葉を Haidt (2007) の道徳基盤理論における 5 つの基盤に含まれる形容詞からそれぞれ 10 個ずつ選び和訳、名詞化した。画像刺激として魅力的な女性の画像 10 枚と家画像 10 枚を使用した。女性の画像は Google 画像検索から 100 枚選出し、予備実験で魅力度を測定した。予備実験において、実験参加者は画面上に呈示された女性の魅力度を 0 点から 100 点の間で 1 点刻みで評価した。

手続き

本実験は事前テストセッション、画像観察セッション、事後テストセッションの 3 つのセッションで構成された。

事前テストセッション

IAT を用いて自己と道徳の潜在的な連合の強さを測定した。実験参加者は中央に呈示された語句が画面上部に呈示されているどのカテゴリーに属するかを、キー押しによって出来るだけ早く正確に回答した。Figure 1 で示した例では、「孝行」は道徳のカテゴリーに属する語句であるため、実験参加者は F キー (左) を押した。カテゴリーの左右の位置は実験参加者によってカウンターバランスを取った。画面中央に語句が呈示されてから実験参加者が反応するまでの時間と反応の正誤を記録し、これらを元に IAT 得点を算出した (D_4 -measure; Greenwald et al., 2003)。

IAT を実施した後、日本語版 PANAS を配布した。実験参加者は各項目が現在の自分の状態にどれ程当てはまるかを 6 段階で回答した。



Figure 1. IATテスト画面の一例。孝行は道徳的カテゴリーに属する語句なので、左側のキー（F）を押す。

画像観察セッション

N-back 課題を実施した。このセッションの課題は魅力的な女性の画像、または家画像のどちらかを観察することであった。画像は1枚ずつ画面中央に連続呈示され、実験参加者は呈示された画像が1つ前に呈示された画像と同じものかどうかをキー押しによって回答した（1-back 課題）。画像の呈示時間は1秒、呈示回数は100回であった。

事後テストセッション

事前テストセッションと同様であった。

結果

Figure 2は事前テストセッションと事後テストセッションにおけるIAT得点である。得点が高い程、自己と道徳の潜在的な連合が強いことを意味している。画像条件毎に2要因2水準の分散分析を行なった結果、魅力的な女性の画像が呈示された条件で画像呈示前後の主効果が有意であった ($p = .04$)。実験参加者の性別の主効果は見られなかった ($p = .84$)。

Figure 3は事前テストセッションと事後テストセッションにおけるネガティブ気分状態得点である。得点が高い程、ネガティブ気分状態が強いことを意味している。画像条件毎に2要因2水準の分散分析を行なった結果、魅力的な女性の画像が呈示された条件で画像呈示前後の主効果が有意であった ($p = .01$)。しかし、ネガティブ気分状態の変化とIAT得点の変化に相関は見られなかった。

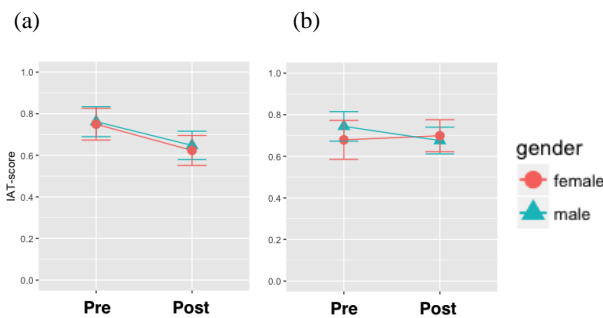


Figure 2. 事前テストセッション（Pre）と事後テストセッション（Post）におけるIAT得点。（a）はN-back課題で魅力的な女性の画像が呈示された条件、（b）は家画像が呈示された条件である。

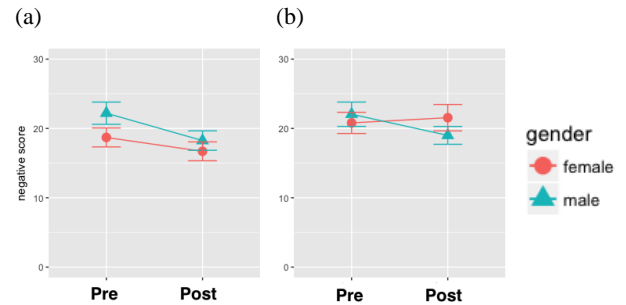


Figure 3. 事前テストセッション（Pre）と事後テストセッション（Post）におけるネガティブ気分状態得点。（a）はN-back課題で魅力的な女性の画像が呈示された条件、（b）は家画像が呈示された条件である。

考察

男性参加者においても女性参加者においても、魅力的な女性の画像を連続提示した後で潜在的な道徳態度が低下した。ネガティブ気分状態が減少したものの、道徳態度と気分状態の変化量に相関関係は見られなかった。これは、魅力的な他者の存在による潜在的態度の変化は気分状態の変化によるものではないことを示唆している。

また、本研究での魅力的な女性の画像の呈示方法はWang et al. (2015) と異なっている。Wang et al. (2015) は道徳行動を測定している間にも魅力的な女性の画像を呈示していた。しかし、本研究は潜在的な道徳態度を測定する際、顔画像を同時呈示していなかった。魅力的な顔を潜在的な道徳態度の測定場面でも呈示することで、魅力的な他者に見られていることが道徳態度の変容に重要なのかを検査することができるだろう。

結論

本実験の結果から、魅力的な女性の画像を連続呈示することで潜在的な道徳態度は弱まることが明らかになった。また、潜在的な道徳態度の変容に感情状態は関与していない可能性が示された。今後、魅力的な人物の顔写真に含まれるどのような要因が潜在的な道徳態度に影響しているのか、さらに検討していく必要がある。

引用文献

Understanding and using the implicit association test: I. an improved scoring algorithm. *Journal of Personality and Social Psychology*, 85, 197-216.

Grimalda, G., Ponderfer, A., & Tracer, D. P. (2016). Social image concerns promote cooperation more than altruistic punishment. *Nature Communications* 7, doi:10.1038/ncomms12288.

Haidt, J. (2007). The new synthesis in moral psychology. *Science*, 316(5827), 998-1002.

Wang, J., Xia, T., Xu, L., Ru, T., Mo, C., Wang, T., & Mo, L. (2015). What is beautiful brings out what is good in you: The effect of facial attractiveness in individuals' honesty. *International Journal of Psychology*, 10.1002/ijop.12218